

心と得天真

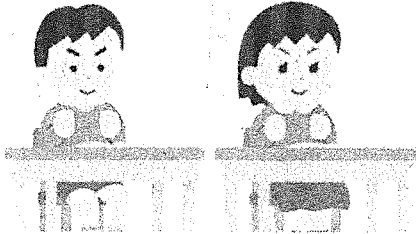
～心として天真を得る



山口市立大歳小学校
学校だより
令和7年12月

夢中から生まれる「探求の心」

令和7年も残すところあとわずかとなり、慌ただしい師走を迎えました。数多くの充実した活動を経て、2学期もいよいよ締めくくりを迎えます。この期間、子どもたちは、修学旅行やチャレンジ学習、社会見学、そして音楽会など、多くの行事を通して一回りも二回りも大きく成長しました。



特に印象的だったのは、様々な活動において、目を輝かせ、時間を忘れて夢中になる姿です。地域の方との交流や体験学習で見せた、真剣に話を聞く姿や、失敗を恐れずに何度も挑戦するひたむきな姿勢は、まさに「知的好奇心」と「探求の心」が満ちあふれている証拠です。こうした「もっと知りたい」「もっと深めたい」という情熱こそが、未来を切り開くかけがえのない原動力となると確信しています。

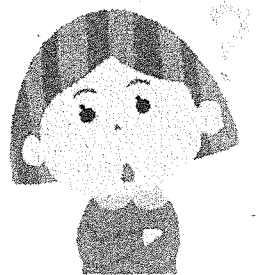
さて、今年の大きなニュースの一つとして、2名の日本人がノーベル賞を受賞するという快挙を成し遂げました。

- ノーベル生理学・医学賞：坂口 志文 氏
・「制御性T細胞の発見」…自己免疫疾患の治療開発やがんの免疫療法など、幅広い医学分野に極めて大きな影響を与えています。
- ノーベル化学賞：北川 進 氏
・「金属有機構造体(MOF)の開発」…二酸化炭素の吸着・分離、環境中の有害物質の除去、医薬品の運搬など、環境問題やエネルギー問題の解決に貢献する革新的な新素材として期待されています。

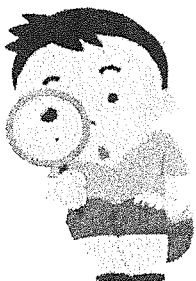
この快挙の根底には、今、子どもたちが見せてくれている「夢中になって探求する姿」と同じ情熱があります。受賞されたお二人は、誰も気づかなかった小さな発見を、何十年もかけて大きな研究へと発展させました。世界を変える発見は、すべて「なぜだろう?」「どうなっているのだろう?」という素朴な疑問から生まれています。それを突き詰め続けた地道な努力と、尽きることのない探究心が、世界的な発見へとつながったのです。

学校においても、ご家庭においても、私たち大人が、子どもたちの「夢中」になる気持ちや「探求したい」という情熱を決して途中で止めたり、急がしたりせず、じっくりと大切に育てていきたいと考えています。

ノーベル賞を受賞された方々の歩みを振り返ると、教職員やご家族が次のような姿勢で子どもたちの探求心を育んできたという共通点が見られます。



- ① 質問に耳を傾ける…子どもたちが「なぜ?」「どうして?」と不思議に感じたことを質問してきたら、「忙しいから後でね。」とせず、可能な限り立ち止まって一緒に考える時間をもつ。
- ② 失敗を恐れない環境…「間違ってもいいんだよ。」「やってみよう。」という言葉で、失敗を恐れずに挑戦ができる環境を作る。失敗は次の成功のための貴重なデータや経験となる。



ノーベル賞のニュースは、遠い世界の話ではありません。学校で学ぶ勉強や、子どもたちがもつ好奇心の延長線上にあるものです。学校においても、子どもの「?」を大事にした授業改善に努めたり、子どもたちが夢中になって取り組めるような工夫をしたりしながら、探求の心を育んでいきたいと思います。ぜひご家庭でも、子どもたちの「なぜ?」に耳を傾け、一緒に考えたり、図鑑を広げたり、調べに行ったりするなど、知的好奇心を大切にする豊かな時間を共に過ごしていただくと幸いです。